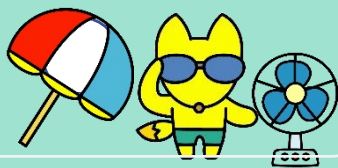


ハートフルなんぶ

2026. 8月号 vol. 329



長野市立南部図書館

〒388-8006

長野市篠ノ井御幣川1201番地

TEL (026) 292-0143

FAX (026) 292-0559

<https://library.nagano-ngn.ed.jp/>

夏期学習室のご利用について

夏休み期間中は平日も2階大会議室を学習室として利用できる日があります。

学習室利用時間

午前10時～午後5時30分まで
(時間厳守)

- ※ 会議やイベントで使用するため解放できない日があります。
- ※ 室内では、蓋つきの飲み物以外の飲食はできません。
- ※ 2階の廊下で、昼食等の飲食が可能です。
- ※ ゴミは必ず持ち帰ってください。



南部図書館		8月学習室開放日				
日	月	火	水	木	金	土
						1
						開放
2	3	4	5	6	7	8
開放		休館日			開放	開放
9	10	11	12	13	14	15
開放	開放	休館日	開放	開放	開放	開放
16	17	18	19	20	21	22
開放	開放	休館日	開放	開放	開放	開放
23	24	25	26	27	28	29
開放		休館日				開放
30	31					
開放	休館日					

『驚異の隠し部屋』 ステファン・バックマン／著 日経ナショナルジオグラフィック 《520ハ》

『いちばんよくわかる西洋建築史入門』 中島 智章／著・監修 エクスナレッジ 《523ナ》

『おはなしの時子』 朝比奈 あすか／著 双葉社 《Fア》

『わたしを庇わないで』 石田 夏穂／著 集英社 《Fイ》

『たぶん、恋しい』 一穂 ミチ／著 新潮社 《Fイ》

『カフェ保健室』 吉野 万理子／著 徳間書店 《Fヨ》

『三鬼』 小林 恭二／著 講談社 《Fコ》

『二月に憂鬱な君へ』 西條 奈加／著 東京創元社 《Fサ》

『煬帝と少年』 千葉 ともこ／著 双葉社 《Fチ》

『天保釣り合戦顛末記』 土橋 章宏／著 小学館 《Fト》

『雨の日の心理学』 東畑 開人／著 KADOKAWA 《146ト》

『戦国きょうだいの日本史』 福田 智弘／著 時事通信出版局 《281フ》

『めんどくさいは、あっていい。』 ゆうき ゆう／著 東京：清流出版 《141ユ》

『麻婆放浪記』 嵐 よういち／著 産業編集センター 《290.9ア》

『海外旅行でのスマホ使いこなし術』 リンクアップ／著 技術評論社 《290.9カ》

『図解でスッと頭に入る令和の物価高騰』 洞口 勝人／監修 昭文社 《337ス》

『法医学教授が教えている死体の授業』 飯野 守男／著 飛鳥新社 《498イ》

『音楽の見取り図』 土田 京子／著 ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス

《761ツ》



今月の
新刊案内



『戦争の教訓』 栗原 俊雄／著 実業之日本社 ≪210. 7ク≫
 『イスラム世界に平和は来るか?』 小滝 透／著 東京：春秋社 ≪302. 2コ≫
 『何とかならない時代の幸福論』 ブレイディみかこ／著 朝日新聞出版 ≪304フ≫
 『平等について、いま話したいこと』 マイケル・サンデル／著 早川書房 ≪311サ≫
 『歴史を動かした「決戦」の世界史』 伊藤 敏／著 ベレ出版 ≪391イ≫
 『旅する平和学』 前田 朗／著 彩流社 ≪319マ≫
 『沖縄「平和宣言」全文を読む』 高文研 ≪319オ≫
 『いわさきちひろ』 松本 猛／著 講談社 ≪726イ≫
 『わたちの和平交渉』 小島 慶子／著 光文社 ≪914. 6コ≫
 『ジジイの昭和絵日記』 沢野 ひとし／著 文藝春秋 ≪914. 6サ≫
 『歌われたのは軍歌ではなく心の歌』 日野原 重明／監修 新日本出版社 ≪916ウ≫
 『僕がイスラム戦士になってシリアで戦ったわけ』 鶴澤 佳史／著 金曜日 ≪916ウ≫
 『わたしが戦場にいる』 小手鞠 るい／著 偕成社 ≪Y904コ≫



ESSAY



「平和」



寄稿：とど

「そんなに昔の話ではない」

自分の行列嫌いは、母から聞いた戦時中の話の影響かもしれない。疎開先で身重の母（私の祖母）に代わり、食料配給に並んだ時のこと。散々待ったあげくなんと目の前で品切れになったという。砂糖不足の当時、それは貴重な紅白饅頭だった。ショックでわんわん泣く幼い母を見かねた大人達が融通してくれ、結局白×白セットの饅頭をもらうことができたという。家族のため必死に並んだのに持ち帰れないと思った時の切なさ、生死を分けるほどではなくとも、子供の小さな希望が砕かれた場面ではあった。

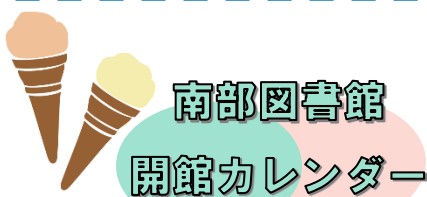
この話を最初に聞いたのは戦後20年の頃。幼い私は遠い昔話だと思ったが、今なら20年前なんてつい最近だと分かる。母も生々しい記憶として語ってくれたのだろう。あの戦争は母を行列で泣かせて以来、今でも花火の打ち上げ音を空襲と聞こえさせ、カーキ色を大嫌いと言わせ、不要品を捨てるのすら罪悪感を覚えさせるほど、ずっと母の中に居座り続けている。

世界各地で争いが激しい今、戦後80年を過ぎたこの国も戦争へと戻る空気がないとは言えない。戦争は昔話ではなく、今と地続きの話だ。母の饅頭行列の話はとてもささやかだが、身近にあった戦争体験として子や孫に語り継ぎ、先の世代まで忘れさせたくない。そして、そこに新たな戦争の体験談など決して加わってはならない



2026年8月

2026年9月



開館時間：午前10時～午後6時

■は休館日です

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			